



平成 26 (2014) 年 2 月 28 日 発行

学校通信 くすのき

～いよいよ巣立ちの日～ 第66回卒業証書授与式 3月14日(金) 午前9時30分 開式

少しずつですが日足も伸び始め、徐々に早春の息吹を感じられる季節となってきました。さて、いよいよ卒業式。3年前の入学式の日、緊張した面持ちで正門をくぐってきた66期生のみなさんがもう卒業式、まさに「光陰矢のごとし」(月日がたつのは矢が飛ぶように早いこと)ですね。今年の卒業生の歌は、「はるか」です。いつも見守っていただいている保護者・地域の皆様や先生方そして後輩たちに感謝の想いが届くよう精一杯歌います。

夢を実現するために ～自分を信じ、仲間を信じて～

2月1日の土曜授業の日に、2001年デフリンピックローマ大会女子バレーボールの金メダリストで、現在は大阪市立聴覚特別支援学校の教員をしておられる栄智美先生を本校にお招きして、「夢を実現するために」と題して講演をしていただきました。

栄先生は、2001年大会まで1年を切ったある日、ひざのじん帯の9割以上を切断する大けがをします。もう金メダルという「夢」は終わったとあきらめかけていたとき、病院に見舞いに来た監督やチームメイトから「金メダルを取るために絶対必要だから早く戻って来て欲しい」と励まされ、再びコートに戻る事が出来たそうです。そして迎えた2001年ローマ大会、アメリカとの決勝戦で、絶体絶命に追い込まれながら大逆転。そして、ついに金メダルを手に入れます。大けがをしている自分を信頼してくれた監督や仲間の励ましがなかったら「夢」は叶わなかったと話され、夢の実現に向け自分を信じ、仲間を信じる事の大切さを私たちに教えてくれました。

今、栄先生の新たな「夢」は、デフリンピックを日本中、世界中に広めることだそうです。また、この講演では栄先生の手話を言葉にする「読み取り通訳」を体験しました。「読み取り通訳」はできる人も少なく、貴重な体験となりました。

(※デフリンピックとは、聴覚に障がいがある方たちのオリンピックで、1924年のパリ大会から始まり90年の歴史があります。)



2年生 進路学習 ～公立高校15校を訪ねて。～

1月31日(金)に、2年生が高校訪問を行いました。いつもより早い8時15分の集合でしたが、誰一人遅れることなく登校し、高校訪問に対する2年生の意識の高さを感じられました。

訪問校では、学校の特色などを説明していただいた後、授業見学や校舎見学を行いました。見学後は、ほとんどの学校で食堂を利用させていただき、好きなものを注文して食べる事ができました。高校の食堂は「安くておいしかった」、「メニューが豊富だった」など、とても好評だったようです。

また、事前にインターネットやパンフレットなどを使って訪問校の特色や、交通経路、通学所要時間などを調べ、訪問校での質問も考えました。そのため、2時間程度の短い訪問でしたが、大変充実した時間を過ごせたようです。なかには、訪問校がとても気に入り、「進学先の有力候補になりました」と興奮気味に感想を述べている生徒もいました。

まとめとして、訪問校ごとに壁新聞を製作し2月14日(金)に発表会を行いました。自分たちで撮影した写真などを上手に使って、各校の特色が分かりやすくまとめてあり、訪問していない高校のことも知ることができました。

今回の高校訪問の取組みは、準備に多くの時間をかけましたが、2年生の生徒たちにとって来年の進路を考える大きなきっかけとなりました。後になりましたが、ご協力いただいた保護者の皆様には引率などで大変お世話になりました。ありがとうございました。



1年生「リトルティーチャー」の取組 ～西淡路小・淡路小の5年生と交流しました～

本校と校下小学校では、小中連携の一環として中学1年生と小学5年生が「リトルティーチャー」の取組を合同で行っています。中学生にとっては、小学生を相手に学習活動のサポートを行う事で自己有用感を育てることができ、小学生にとってはあこがれの対象であった中学生の先輩と身近に触れ合うことで、中学校生活へのスムーズな移行を助け、中1ギャップの解消に役立てることがねらいです。

また、本校では、この取組みに向けて、ピア・サポート(仲間が仲間を支える)の取組みを実践し、「相手に優しい話し方」や、「相手を傷つけない上手な聞き方」などの良質なコミュニケーションを生むトレーニングを1学期から行っています。

2月3日(月)には、本校の1年生が二つの小学校に分かれて中学生と小学生がゲームや大縄跳びで互いに楽しく交流し、打ち解けあうことができました。

そして、2回目の2月14日(金)には、西淡路小・淡路小の児童が本校を訪れ、英語・国語・理科・体育・家庭科・技術科の6教科に分かれて、中学校の先生の授業を受けました。英語・国語・理科の授業では、小学生のわからないところを中学生がうまく聞き出して、丁寧に教えていましたし、体育・家庭科・技術科の実習の教科では、一緒に作品を作ったり、難しいところを手助けしていました。一方で、小学生も中学生から優しい言葉で教えられて、とても嬉しそうでした。

リトルティーチャーの取組みは、本校の1年生にとって大変実り多い成果を得ました。感想には「教えるのはとても難しかったけど楽しかった」「小学生が分かったと言ってくれてうれしかった」など、リトルティーチャーをやって良かったという内容が多数でした。



朝文研交流会(ムチゲ交流会)

ムチゲとは朝鮮語で「虹」という意味です。虹は、地平線をつなぐ架け橋です。民族の違いを越えてみんながつながることができるようにとの思いを込めてムチゲ交流会と名付けました。

2月5日(水)の5者活動の時間に、各サークルや7者リーダーのメンバーがこの交流会に集い、ノルティギやチェギチャギ、ユンノリなどの朝鮮の遊びを楽しく体験しました。その後のウリナラクイズ大会では、朝鮮と日本の動物の鳴き声の表現の違いなどが出題され、各サークル対抗戦形式で大いに盛り上がりました。最後に、参加者全員で柚子茶を飲み交流会を締めくくりました。



日本の古典に親しむ。～1年生百人一首大会～

2月21日(金)に、1年生が百人一首大会を行いました。大会の始まる何日も前から、1年生の教室の壁には百人一首の句がところ狭しと貼ってあり、「優勝するのは我がクラスだ!」という担任や生徒たちの意気込みがあふれていました。

「古典は苦手です。」という生徒が多いのですが、このような行事を通して歴史的仮名づかいである「けふをかきり」を「今日をかぎり」と読むことや、「みつくる」を「水くくる」と読むことなどを自然に覚えられ、楽しみながら古典に親しむことができます。

そして、迎えた大会は、きちんと正座をし、お琴の曲がBGMで流れる厳かな雰囲気の中で行われました。日本の伝統行事の重みが自然に伝わってくる演出です。大会も、とてもレベルの高い争いとなり、上の句を読み終えないうちに「はいっ!」と札を取る元気な声があちらこちらで響いていました。

優勝は1組。6～8人で対戦するのですが、中には一人で40枚以上取る生徒もいました。

